

2022年11月4日 全8頁

新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（2022/11/4号）

個社データ・業界統計・JCB消費NOWから足元の消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 中村 華奈子

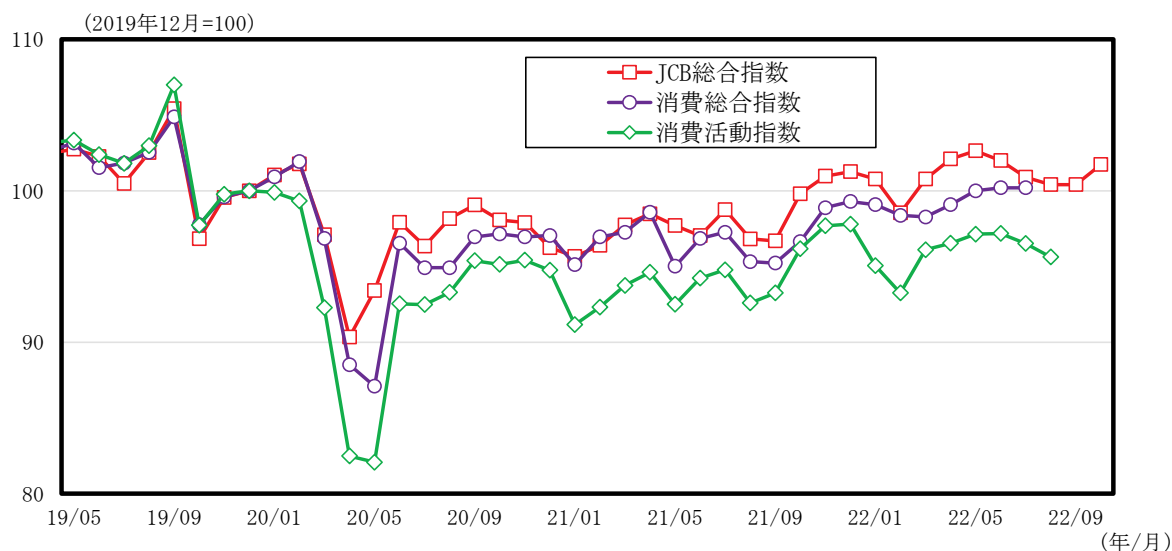
[要約]

- 2022年9月の消費は財・サービスともに前月から小幅に回復した。財消費のうち、アパレル主要2社の既存店売上高の伸び率は新型コロナウイルス感染拡大前である2019年同期比で前月から上昇した。サービス消費のうち、新幹線輸送量は2019年同期比のマイナス幅が前月から縮小した。宿泊需要や外食需要は新型コロナウイルスの感染「第7波」のピークアウトを受けて前月から回復した。
- 10月の消費は回復基調が継続したとみている。財消費のうち、百貨店大手3社の売上高やアパレル各社の既存店売上高は感染拡大前である2019年同期比で前月から伸び率が上昇した。10月の新車販売台数は前月比+14.5%と大幅に増加した。サービス関連のうち、新幹線輸送量は2019年同期比のマイナス幅が前月から縮小した。宿泊需要や外食需要は前月から回復が継続した。小売店・娯楽施設の人出は月中旬にかけて緩やかに回復した。こうした動きを反映して、サービス消費は前月から回復したとみている。

<消費全体の動き>

- ◆【JCB 総合指数】 10 月前半の JCB 総合指数¹（大和総研による季節調整値）を元に 10 月の消費の伸び率を推計すると、前月比+1.3%となった。財・サービスともに前月から上昇した。

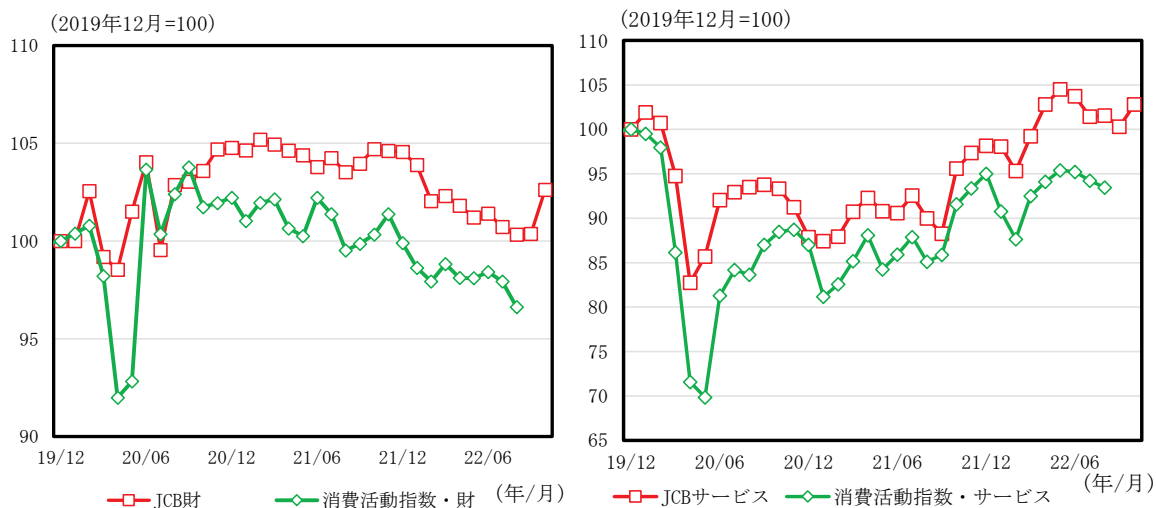
図表 1：消費総合指数・消費活動指数・JCB 総合指数



(注) JCB 総合指数は大和総研による季節調整値。CPI(2020年基準)で実質化。

(出所) 日本銀行、内閣府統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

図表 2：財・サービス別に見た消費の動き



(注 1) JCB 財指数・JCB サービス指数は大和総研による季節調整値。CPI(2020年基準)で実質化。

(注 2) 財の消費活動指数は、当該指数の耐久財・非耐久財を形態別ウエイトで加重平均したもの。

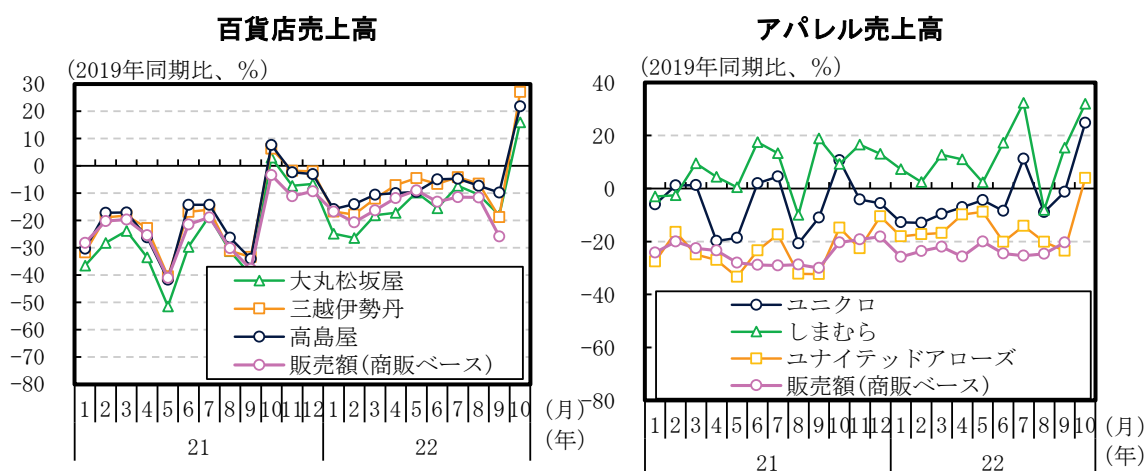
(出所) 日本銀行、内閣府統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

¹ JCB グループ会員の中からランダムに抽出された約 1,000 万会員を対象に、ナウキャスト社が作成・公表している消費指数。

<小売関連>

- ◆【百貨店】 大手3社の9月の既存店売上高は、新型コロナウイルス感染拡大前である2019年同期比で前月からマイナス幅が拡大。10月は3社とも売上高伸び率が上昇し、同約1~3割増。消費増税前の駆け込み需要の反動減で2019年の水準が低い点には留意が必要だが、感染状況の改善や水際対策の大幅緩和に伴い客足が回復した。
- ◆【アパレル】 9月のアパレル各社の既存店売上高の伸び率は、2社が感染拡大前である2019年同期比で前月から上昇。10月の売上高伸び率は3社とも前月から上昇。平年よりも平均気温が低かったことや旅行需要の高まりを背景に秋冬物の売上が好調。

図表3：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。

(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユニテッドアローズはネット通販を含む数値。

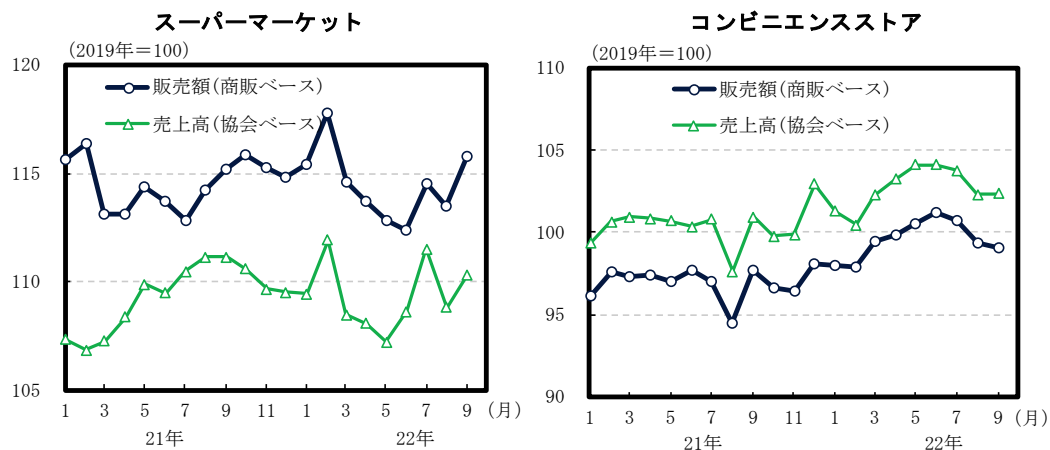
しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値、2020年10月以降はオンラインストア含む。

(注3) アパレル販売額(商販ベース)は、商業動態統計の「衣服・身の回り品卸売業」を参照。

(出所) 経済産業省統計、各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパーマーケット】 9月の売上高は前月比+1.4%（大和総研による季節調整値）。一般食品や日配食品などが増加。
- ◆【コンビニエンスストア】 9月の売上高は前月比+0.0%と前月から横ばい（大和総研による季節調整値）。

図表4：スーパーマーケット・コンビニエンスストアの売上高

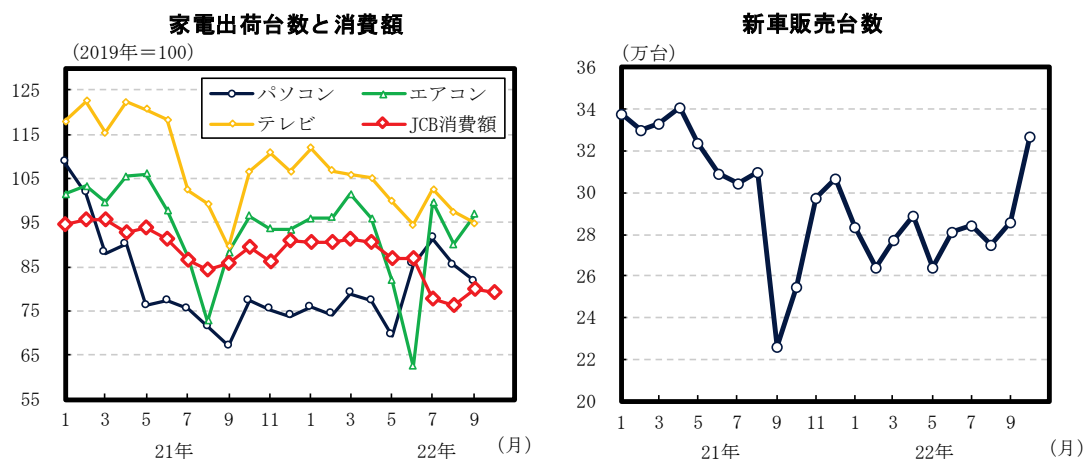


(注) 売上高(協会ベース)は既存店ベースの数値。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、全国スーパーマーケット協会、日本フランチャイズチェーン協会より大和総研作成

- ◆【家電】 9月の出荷台数はエアコンが前月比+7.5%、パソコンが同▲4.1%、テレビが同▲2.6%（大和総研による季節調整値）。10月のJCB消費額は同▲0.9%と前月から小幅に減少。
- ◆【自動車】10月の新車販売台数は前月比+14.5%と大幅に増加（大和総研による季節調整値）。供給制約緩和の影響が販売増加に繋がったとみられる。

図表5：家電出荷台数と新車販売台数



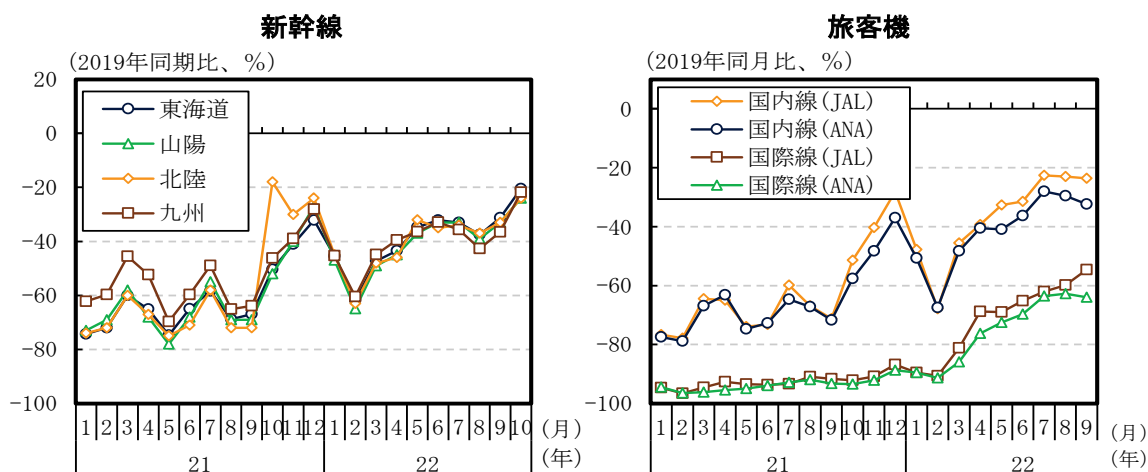
(注) 大和総研による季節調整値。JCB消費額はJCB「機械器具小売業」。22年10月分は10月前半データを元に伸び率を推計。

(出所) 電子情報技術産業協会、日本冷凍空調工業会、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計

<サービス関連>

- ◆【新幹線】9月の輸送量は感染拡大前である2019年同期比で3~4割減。10月の輸送量は同2割減程度といずれも前月からマイナス幅が縮小。
- ◆【旅客機】9月の国内線輸送量は感染拡大前である2019年同月比2~4割減と前月からマイナス幅が小幅に拡大。国際線輸送量は企業によりまちまちな結果。全日本空輸(ANA)グループは2022年度末の旅客数の見通しについて、全国旅行支援を追い風としたレジャー需要の回復や水際対策のさらなる緩和により、国内旅客では感染拡大前(2019年1~12月実績)の水準程度、国際旅客では同6割程度の回復を見込む。

図表6：新幹線・旅客機の利用状況



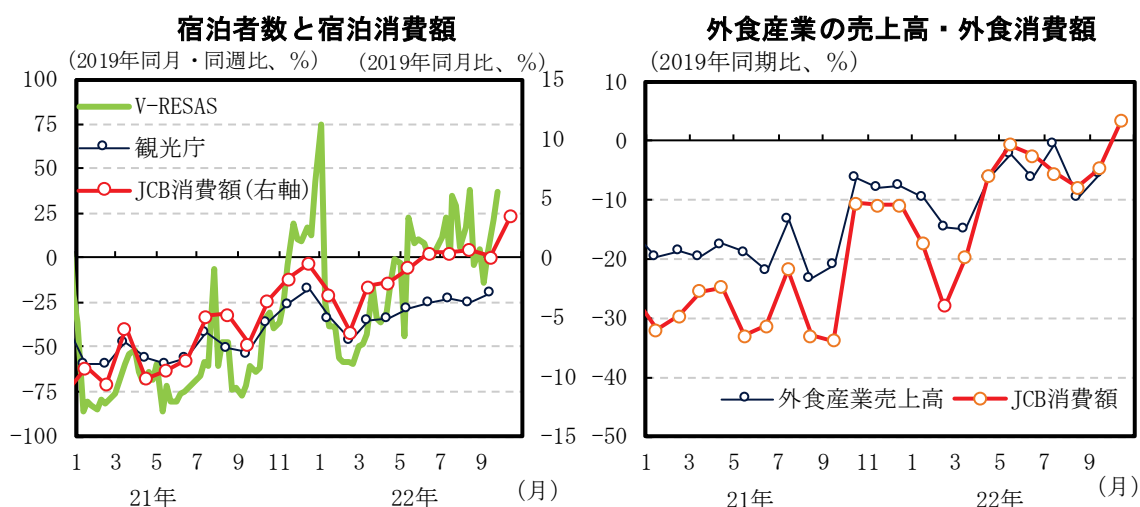
(注) JAL・ANAのデータはグループ会社を含む数値。

2022年10月の山陽と北陸は7日、東海は30日、九州は22日まで。

(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

- ◆【宿泊】 9月の宿泊者数（観光庁、宿泊日数ベース）は感染拡大前である2019年同月比▲20%と、前月からマイナス幅が縮小。V-RESAS（宿泊開始日ベース）で見ると、感染「第7波」のピークアウトを受けて月下旬にかけて宿泊者数が順調に回復。10月のJCB宿泊消費額は同+3.5%と前月から増加。全国旅行支援の実施が影響したとみられる。
- ◆【外食】 9月の外食産業の売上高は感染拡大前である2019年同期比▲5%と前月からマイナス幅が縮小。感染「第7波」のピークアウトに伴い外食需要が回復。10月のJCB外食消費額は同+3.5%と前月から増加。

図表7：国内宿泊者数／外食産業の売上高



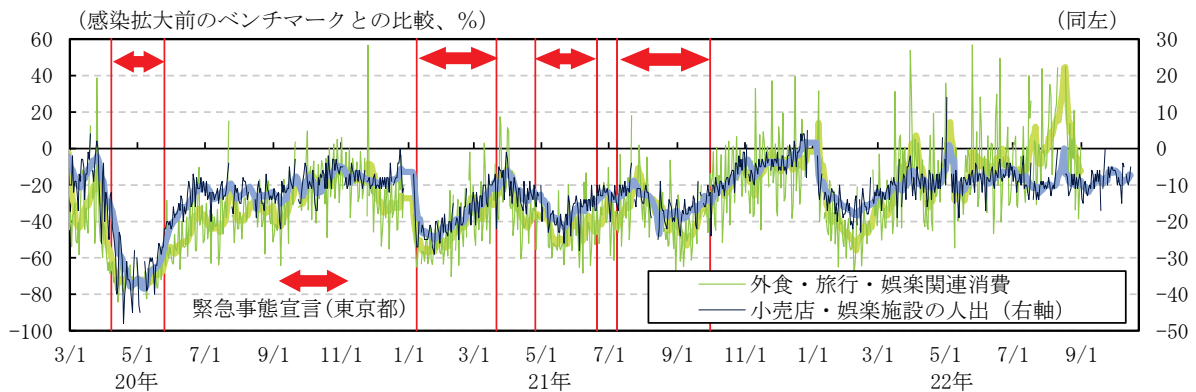
(注) V-RESASのデータは週次、それ以外は月次。22年10月のJCB消費額は10月前半データを元に伸び率を推計。

観光庁統計は宿泊日数ベース、V-RESASは宿泊開始日ベースの宿泊者数のデータを用いている。

(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、V-RESAS、株式会社ナウキャスト/ JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

<参考：人出・高速道路交通量>

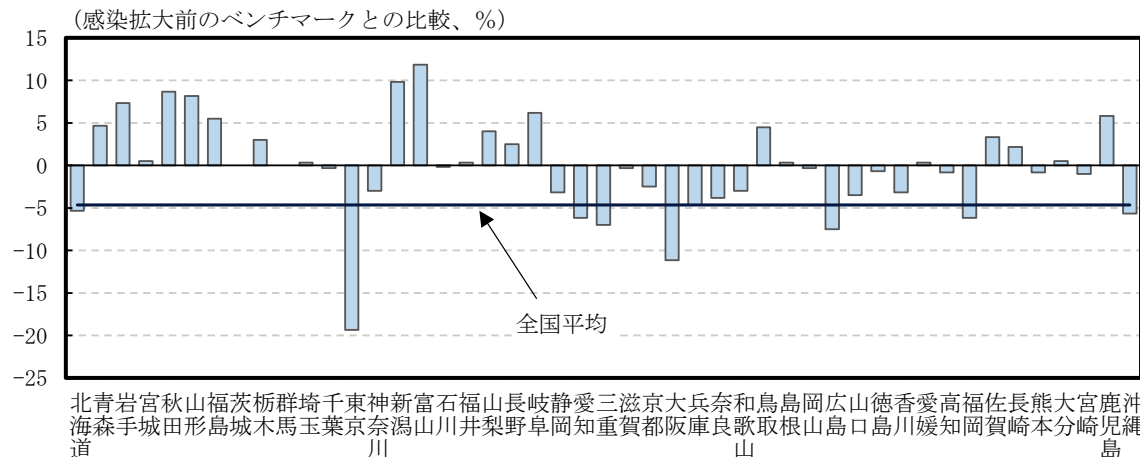
図表 8-1：小売店・娯楽施設の人出（直近値 10/15）と外食・旅行・娯楽関連消費



(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。太線は7日移動平均。外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。月～金曜日の祝日とお盆、年末年始のデータは除いている。

(出所) 総務省統計、Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

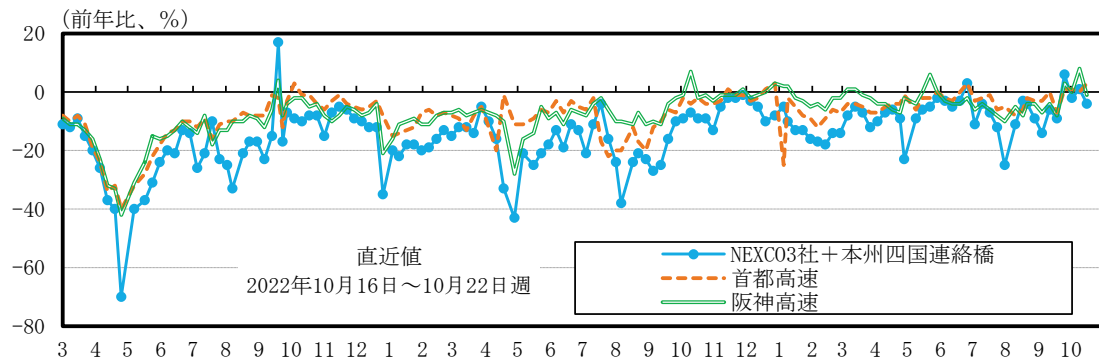
図表 8-2：小売店・娯楽施設の人出（10/9～10/15 平均、都道府県別）



(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。

(出所) Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

図表 9：高速道路交通量

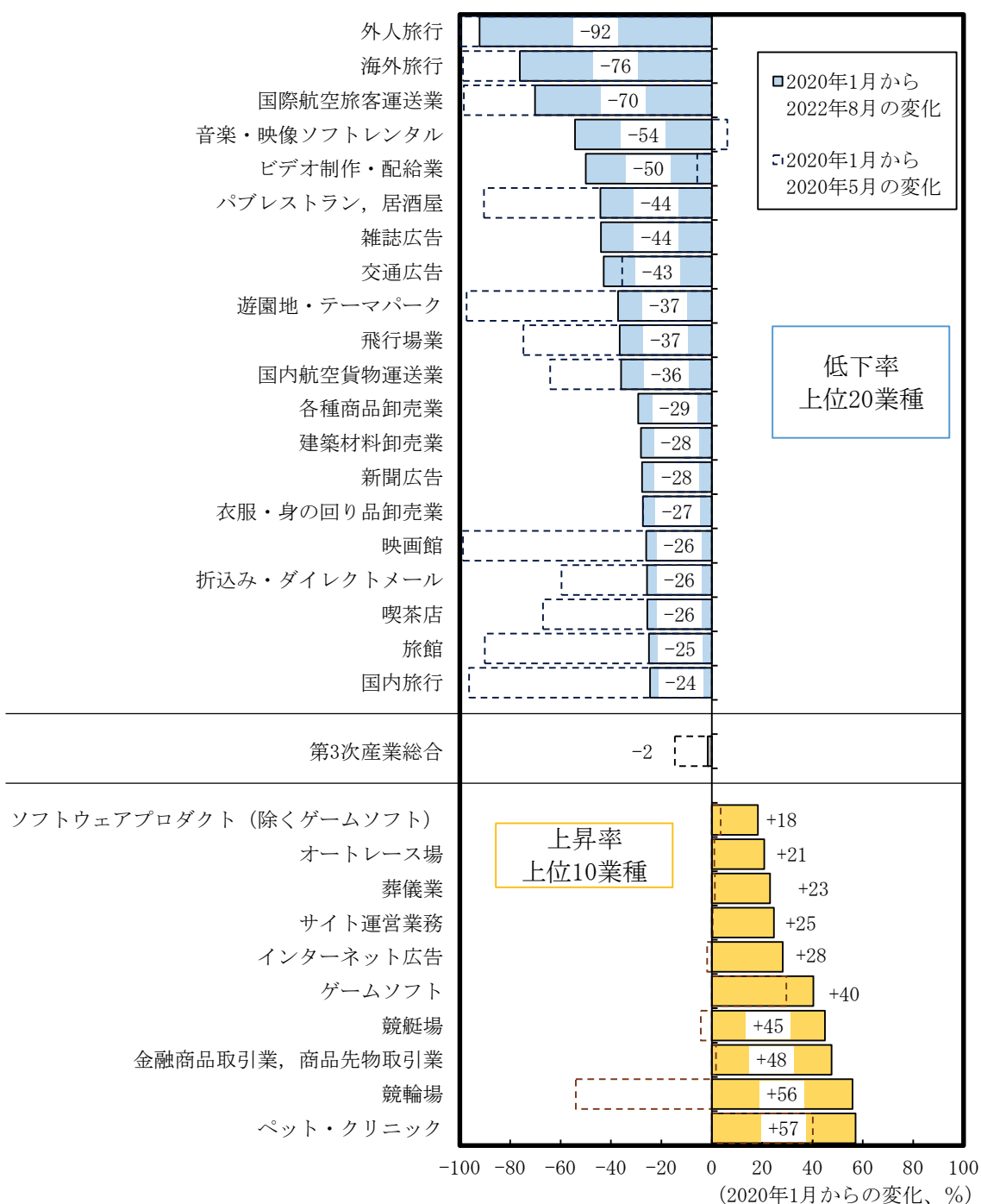


(注) 週次データ。高速道路交通量のゴールデンウィークとお盆期間、シルバーウィーク、年末年始の前後の週は集計日数が異なる。

(出所) 国土交通省より大和総研作成

<参考：第3次産業活動指数>

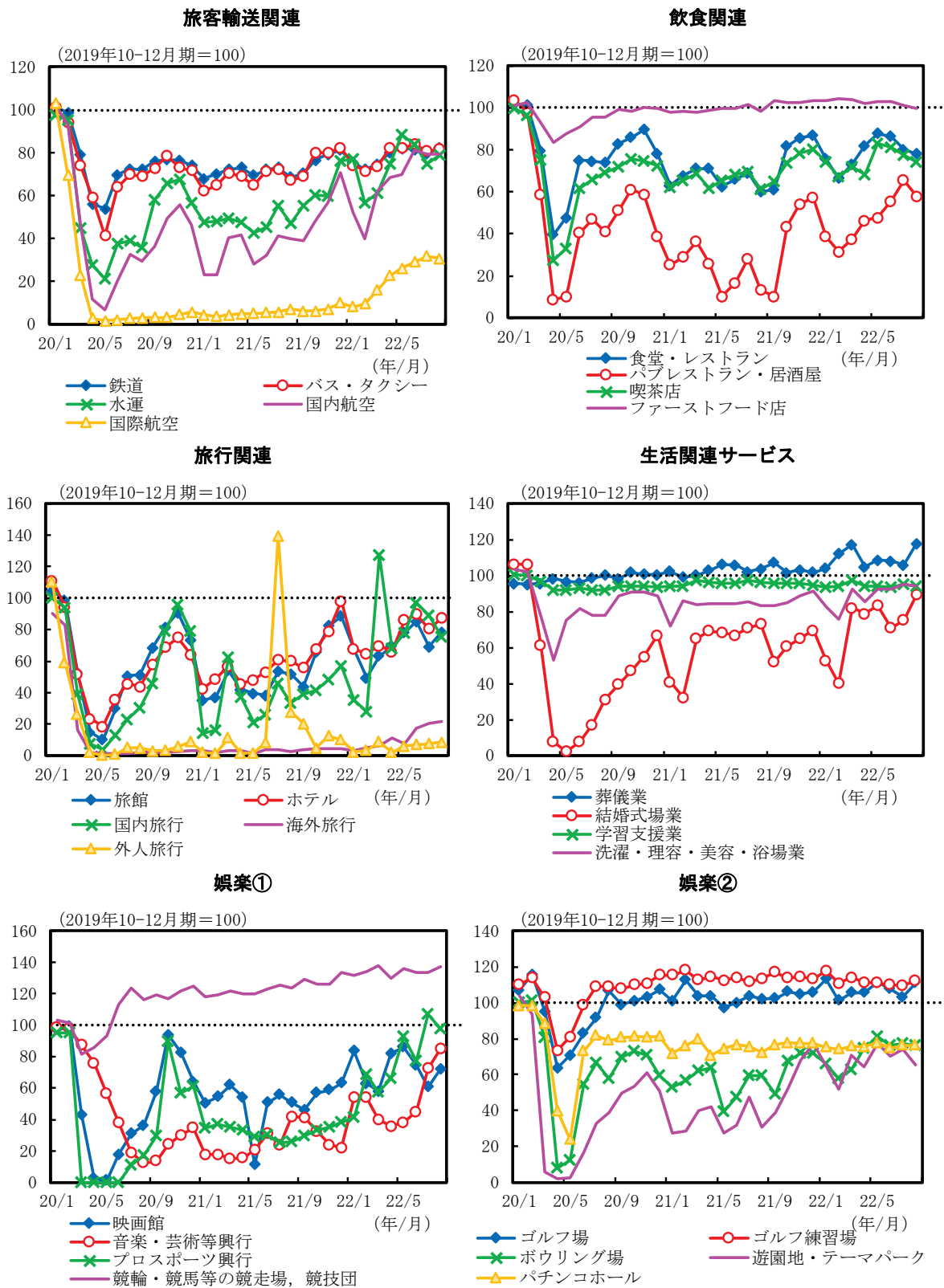
図表 10-1：第3次産業活動指数（2022年8月）



(注) 季節調整値。図中の数値は2020年1月から2022年8月の変化率。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

図表 10-2 : 運輸業・生活関連サービス業における活動指数の推移



(出所) 経済産業省より大和総研作成